


平成29年第四回都議会定例会

文 書 質 問 趣 意 書

提出者 河 野 ゆりえ

リサイクル適性 
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています
石油系溶剤を含まないインキを使用しています

質 問 事 項

- 一 硬式野球チーム江戸川南リトル&リトルシニアリーグのグラウンド確保について

一 硬式野球チーム江戸川南リトル&リトルシニアリーグのグラウンド確保について

2020年東京五輪の競技施設建設等に伴って、子ども達にとって大事な運動場や広場など、スポーツ活動を行なう場所が失われています。

例えば、江戸川南リトル&リトルシニアリーグは、江戸川区内及び周辺地域の野球愛好少年少女に野球を通して、健全な心身の育成と親睦をはかるとともに、周辺地域の社会活動に協力することを目的に、1984年に創設された硬式野球チームで、全日本選手権大会、全国選抜大会などに出場し、何回もの優勝、準優勝の成績をおさめてきました。リトルリーグ・ワールドシリーズでは、2008年に3位、2010年には世界一となりました。世界大会で優勝した時は、当時の石原慎太郎都知事を表敬訪問し、東京都は新たに創設した「東京スポーツ奨励賞」を贈りました。

リーグからは、メジャーリーガーとなった松坂大輔選手をはじめ、高校野球の甲子園出場選手、プロ野球選手を数多く輩出しています。

このような歴史ある江戸川区の小中学生野球のホームグラウンドが、今年度から確保が困難になっています。その理由は、2003年以来使用してきた臨海第二球技場のグラウンド2面が下水道局の所有地で、そこが2020年東京五輪のカヌー・スラローム競技場の建設地に決まったことにあるのです。

臨海第二球技場は、2003年から下水道局の土地を、江戸川区が区内の軟式・硬式野球チームのグラウンドとして1年毎に貸与契約を結んでいましたが、カヌー・スラローム競技場建設の準備のために、今年3月31日をもって契約更改ができなくなりました。その結果、ホームグラウンドとして使用できない事態になりました。

今、重要なのは、条件に恵まれた臨海第二球技場を失っただけでなく、

代替のグラウンドの確保が非常に困難になっていることです。

遡ってのことですが、カヌー・スラローム競技場建設地が当初の予定地だった都立葛西臨海公園から下水道局の土地に変更になった時期の2015年秋頃、江戸川区と東京都は、軟式・硬式の野球チーム役員に対し、「カヌー・スラローム競技施設の建設に反対しないでほしい。代替のグラウンド確保は努力する」旨の説明をしていたとも聞きます。その後、2016年6月に再度説明会が持たれましたが、代替グラウンド確保については明解な回答はなく、2017年3月末で臨海第二球技場は閉鎖となった経過があります。

このことに関しては、この間リーグの役員が、区・都への要請を何回も行なう中で、江戸川区が荒川右岸河川敷の29番グラウンドを使用できるように手当てしました。しかし4月から11月末までは日曜日の午後しか使用できず、やっと、この12月に入って土曜と日曜に使用できるようになったものの、ホームグラウンドを失った事態は未だ解決を見ていません。

子ども達は、こうした条件の下でも練習に励んでいます。肝心のグラウンドが見つからず、役員達は、千葉県や神奈川県に出向いて抽選に申し込むなどグラウンド確保に努力しています。

この例のように、少年野球などスポーツを愛する子ども達の夢を守ってあげたいと、保護者はもとより関係する大人達は心を痛め、涙ぐましい努力をしているのです。

グラウンド確保については、例えば区内や近隣の区において使っていない都の所有地を活用する可能性はどうなのでしょう。硬式野球の練習や試合に必要な面積は、およそ100メートル四方、1ヘクタールです。一例をあげれば、江戸川区臨海町1丁目の東京臨海病院の隣の公有地は、長期にわたって未利用地となっています。ここは、2020年東京五輪では警視庁や消防庁の活動拠点となる計画はあるものの、2018年については、両庁と

も使用は予定していないと仄聞しています。

スポーツを愛する少年少女の夢がかなうよう、都有地や公園の提供など「できる」万策を講じることこそが重要ではないでしょうか。そこで知事にうかがいます。

- 1 知事は、2020年東京五輪の競技施設建設によって、子ども達の貴重なスポーツ施設がなくなっている事例があることをご存知でしょうか。また、世界のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックなのに、開催都市東京で、未来のアスリート達の夢が押しつぶされているような現状をどのようにお考えでしょうか。それぞれお答えください。
- 2 子ども達の夢や希望を育み、未来のアスリート達を育成し、機運を醸成していくためには、都と区が連携していくことが欠かせません。今回、起きたような事例に関しては、区との協議・協力を進めていただくことを強く要望いたします。

以上知事の所見をうかがいます。

平成29年第四回都議会定例会

河野ゆりえ議員の文書質問に対する答弁書

質 問 事 項

一 硬式野球チーム江戸川南リトル&リトルシニアリーグのグラウンド確保について

1 知事は、2020年東京五輪の競技施設建設によって子ども達の貴重なスポーツ施設がなくなっている事例があることをご存知か。また、世界のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックの開催都市東京で、未来のアスリート達の夢が押しつぶされている現状をどのように考えているか伺う。

回 答

御質問の事例にある野球場については、地元区が都の所有する未利用地を一時的に借り受け、設置していたものであり、当該用地については、地元区と協議の上、使用許可を終了し、東京2020大会の競技施設整備を進めているところです。

競技会場の整備や大会の開催により、既存スポーツ施設の利用に一定の影響があることは認識しており、これまでも地元からの要望等も考慮しながら施設のレイアウトを再検討するなど、その影響を極力抑制するように調整を行ってきました。

都が新たに整備する新規恒久施設は、東京2020大会時の競技施設としてのみならず、大会後も多くの都民に利用される、スポーツ振興の拠点としていきます。

質 問 事 項

一の2 子ども達の夢や希望を育み、未来のアスリート達を育成し、機運

を醸成していくためには、都と区が連携していくことが欠かせない。今回、起きたような事例に関しては、区との協議・協力を進めることを強く要望する。所見を伺う。

回 答

東京2020大会の競技会場の整備等に際して都民の利用に影響が出る既存のスポーツ施設については、これまでも地元からの要望等も考慮しながら、その影響を極力抑制するように調整を行い、進めてきました。工事中などの代替施設の確保を求める声に関しても、地元自治体等と調整しながら対応してきました。

東京2020大会の準備に当たっては、今後とも、地元自治体と協力し、都民の理解が得られるよう努めていきます。